



円、下落し134円台後半 米金利上昇で 日銀の政策修正観測で買いも

22日午前の東京外国為替市場で円相場は下落した。12時時点は1ドル=134円88～89銭と前日17時時点に比べ31銭の円安・ドル高だった。21日発表された米国購買担当者景気指数（PMI、速報値）は総合で50.2と好不況の境目である50を8カ月ぶりに上回った。米景気の悲観論が後退し、米連邦準備理事会（FRB）の利上げが当面続くとの見方から米長期金利が上昇。日米金利差の拡大を意識した円売り・ドル買いが出た。

10時前の中値決済に向けては「ドル不足」（国内銀行）との声が聞かれた。国内輸入企業による円売り・ドル買い観測も円相場を押し下げる要因となった。

円の下値は堅かった。1月31日～2月1日に開かれた米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨公表を22日に、日銀の次期正副総裁候補の所信聴取を24日に控えて積極的に持ち高を傾ける動きは限られた。日銀の金融政策修正を巡る根強い観測を背景に円買いが増え、円が小幅ながら前日17時時点の水準（134円57～59銭）を上回る場面もあった。

日銀の田村直樹審議委員は22日、群馬県の金融経済懇談会であいさつした。「いずれかのタイミングでは、金融政策の枠組みや物価目標のあり方を含め、点検・検証を行い、政策の効果と副作用のバランスを改めて判断することが必要だ」との見方を改めて示したが、外為市場の反応は限定的だった。

円は対ユーロでも下落した。12時時点は1ユーロ=143円77～79銭と前日17時時点に比べ19銭の円安・ユーロ高だった。S&Pグローバルが21日発表したユーロ圏の総合PMIは52.3と2カ月連続で50を超え、9カ月ぶりの高水準になった。ユーロ圏経済の底堅さが意識され、円売り・ユーロ買いが優勢だった。

ユーロは対ドルで下げた。12時時点は1ユーロ=1.0657～58ドルと同0.0012ドルのユーロ安・ドル高だった。



パーム油、1カ月半ぶり高値 インドネシアの輸出規制を懸念

揚げ油などに使うパーム油の価格が上昇している。指標となるマレーシア市場の先物は20日、一時1トン4202リングギと1カ月半ぶりの高値を付けた。2月上旬に最大産地のインドネシアが輸出規制の強化を発表し、需給の逼迫懸念が強まった。中国の「ゼロコロナ政策」撤廃を受け、中国需要が回復するとの期待も背景にあるようだ。



マレーシア市場先物は1月末比で9%上昇した。インドネシアの海事・投資調整省は6日にパーム油輸出枠の割り当てを見直し、輸出を減らして国内供給量を増やす方針を明らかにした。インフレ抑制や国内物価の安定が目的だ。輸出制限の強化を受け、パーム油価格は強含んでいる。

パーム油の需要も拡大するとの見方が多い。世界の植物油需要の2割弱を占める中国では、「ゼロコロナ政策による個人消費の回復に伴い、パーム油を含めた植物油の需要が増えるとの期待が強まっている」（加工油脂会社の担当者）という。

工業用の需要が増えるとの指摘もあった。インドネシアは2月からディーゼル燃料にパーム油を混ぜる比率を引き上げている。温暖化ガスの排出を抑えるとともに、輸入に頼る石油への依存を減らす狙いがある。同国で燃料用に使うパーム油の量は23年に前年比で2割増える見通し。これに伴い輸出余力が減るとの懸念が強まっている。



港湾でCO2吸収「海洋植物の森」 国交省後押し

海藻などの海洋植物を育て、二酸化炭素（CO2）を吸収させる「ブルーカーボン」事業が全国の港湾に広がりつつある。国内の大手企業が地元関係者と連携し、藻場の整備を進めている。温暖化抑制の効果は世界的に注目を集め、日本も脱炭素への有力な手段に位置づける。国土交通省は全国の港湾で調査に乗り出し、普及につながる制度を検討する。

日本製鉄は2022年秋に北海道増毛町や三重県志摩市など全国6カ所で、漁業協同組合をはじめとした地元関係者と組んで藻場の整備に乗り出した。藻場には鉄鋼を製造する際に副産物として出る鉄鋼スラグを加工した資材（施肥材）を提供する。スラグには海藻の生育に役立つ成分が含まれている。

日鉄はこれまで全国約40カ所で同様の取り組みを実施してきた。18年からの5年間で海藻が吸収した49.5トン分のCO2はカーボンクレジット（削減量）として認められた。国交省も「大手企業の先進的な事例」として評価する。

ENEOSホールディングスも大分、山口両県でウニの食害で減少していた藻場の回復に取り組んでいる。Jパワーや住友商事、商船三井など幅広い業種の大手がブルーカーボンに関連したプロジェクトに参画している。

アマモや昆布、ワカメといった海洋植物は光合成により、海水に溶け込んだCO2を吸収する。国連環境計画（UNEP）は09年の報告書で、ブルーカーボン生態系を温暖化対策の有力な選択肢として示した。

世界の浅い海域でのCO2吸収量は年40億トンに達するとの試算もある。陸域の吸収量である年73億トンの半分ほどだ。日本の沿岸で年約130万～400万トンの吸収量を期待できるといい、30年には森林などのCO2吸収量の2割ほどになるといった研究もある。

港湾を所管する国交省は環境省などと連携し、ブルーカーボン事業の拡大を後押しする。23年度末をめざし、全国に約1000カ所ある港のすべてで、藻場の整備に向けた実地調査やCO2の吸収効果の検証などに取り組む。

ブルーカーボン事業に取り組んだり、関心をもっていたりする企業や漁協、地方自治体、NPO法人などをつなぎ、先行事例のノウハウを伝える。新たなプロジェクトの立ち上げを支援する仕組みも検討する。



ウメモト インフォメーション



2023年 2 月 22 日 担当 Jeong

護岸など港湾設備の設計基準について、海洋生態系と共生できるようにする見直しを進める。一部の企業が導入しているカーボンのクレジット認証の普及拡大も狙う。

政府は50年までに温暖化ガスの排出を実質ゼロにする方針をかかげる。四方を海に囲まれた日本で港湾の脱炭素は重要なテーマとなる。

引用記事

日経新聞



米利上げ継続・在庫増 原油相場 上値重く

消費者物価指数（CPI）の伸び率は前年同月比6.4%だった。昨年6月の9.1%をピークに低下傾向にあるものの、いぜん高止まりが継続。FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げが続き、エネルギー需要を下押しするとの見方につながった。

EIA（米エネルギー情報局）がまとめた週間の米石油在庫統計によると、原油は前週比1630万バレルの大幅な増加。2021年6月以来1年8カ月ぶりの在庫水準に達した。

一方、IEA（国際エネルギー機関）は2月の石油市場月報で、2023年の世界の石油需要が前年比200万バレル増の1億190万バレルになるとし、過去最高としていた1月の見通しを上方修正した。中国の伸びが増加分のほぼ半分を占めるとみた。

指標原油は14～20日にかけて、WTIが休場日の20日を除いた期近物の終値で79バレルから76バレル34セント、北海ブレントが85バレル58セントから84バレル7セントに下落。期間平均ではWTIが前回算定時から59セント（0.7%）安、北海ブレントが62セント（0.7%）安となった。

一方、中東産パイオマーン平均は14～20日が1バレル40セント、15～21日が10セントほど値を上

日経ドバイ原油の推移

期間	日経ドバイ原油		為替レート(円高)		円建て価格	
	ドル/円	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
1/10～1/16	78.82	0.21	131.69	▲2.30	65.3	▲1.0
1/17～1/23	82.86	4.04	130.20	▲1.49	67.9	2.6
1/24～1/30	83.44	0.58	130.96	0.76	68.7	0.8
1/31～2/6	80.36	▲3.08	131.00	0.05	66.2	▲2.5
2/7～2/13	82.18	1.82	132.73	1.72	68.6	2.4
2/14～2/20	83.34	1.16	134.62	1.89	70.6	2.0

※「日経ドバイ原油」は午後の中心値、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート

「支給単価」=「直近の全国平均ガソリン小売価格」+「前週の支給単価」+「週間の原油コスト変動額」-「168円」で、35円を上回る場合は超過額の半分を加える

●例えば「直近の全国平均ガソリン小売価格」が167.4円の場合、支給単価は167.4+17.3+2.0-168.0=18.7となる

が替相場は日米の金融政策の方向性の違いが意識され、円安ドル高基調が続いた。大手銀行TTSレート平均は14～20日が1バレル134円62銭で前回算定時

から1円89銭の円安ドル高、15～21日が135円2銭で2円34銭の円安ドル高だった。政府は14日、日本銀行の次期総裁に経済学者の植田和男氏を起用する人事案を国会に提示した。

三井住友銀行の鈴木浩史チーフ・為替ストラテジストは「植田氏は、現在の金融緩和は適切」と回答しており

（黒田総裁の政策から）大きく路線を変えていくことはないだろう。変更がある場合でも市場とコミュニケーションを取りながら、漸進的に決定すると思われている」としている。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	1/10～1/16	79.06	2.15	131.69	▲1.61	65.48	1.00
	1/17～1/23	83.40	4.34	130.20	▲1.49	68.29	2.81
	1/24～1/30	84.17	0.77	130.96	0.76	69.33	1.04
	1/31～2/6	80.47	▲3.70	131.00	0.04	66.30	▲3.03
	2/7～2/13	82.23	1.76	132.73	1.73	68.64	2.34
	2/14～2/20	83.60	1.37	134.62	1.89	70.78	2.14
水曜日～ 火曜日	1/11～1/17	79.97	4.09	131.01	▲2.18	65.89	2.33
	1/18～1/24	83.86	3.89	130.59	▲0.42	68.88	2.99
	1/25～1/31	83.65	▲0.21	130.97	0.38	68.90	0.02
	2/1～2/7	80.23	▲3.42	131.43	0.46	66.32	▲2.58
	2/8～2/14	83.06	2.83	132.68	1.25	69.31	2.99
	2/15～2/21	83.20	0.14	135.02	2.34	70.65	1.34

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート